

「連合2022平和行動 in 沖縄」派遣団報告

今だ続く米軍基地の実相を知り、恒久平和の実現に向け平和運動の推進を誓う

～連合平和オキナワ集會に、全国から742名が結集～

3年ぶりに現地へ、6月23日（木）沖縄は「慰霊の日」を迎え、語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和の実現を目指し、「連合2022平和オキナワ集會」が那覇市芸術文化劇場「なは一と」で開催され、全国各地より742名の仲間が結集した。連合福島からは、自動車総連の青谷議長を団長に9名で参加しました。

主催者を代表し芳野友子会長から、23日の正午に摩分仁にて、黙とうを捧げ、沖縄戦で亡くなられたすべての方々に、哀悼の意を捧げたこと、そしてこの悲劇を二度と繰り返してはならないと新たに決意したことを冒頭に述べられました。「本土復帰50年を迎えてもなお、変わらぬ沖縄における問題」については、本集會の基調講演や、翌日24日に行う「ピースフィールドワーク」を通じて、「実相を知り、運動につなげる」この



主催者挨拶 連合芳野友子会長

重要性を認識し、平和の尊さをかみしめ、戦争の悲惨さを語り継ぎ、二度と悲劇を繰り返さない、この事を働く多くの仲間とともに固く誓い合いたいと述べられました。

また、集會の基調講演として「沖縄の施政権返還50年と日米地位協定」と題し、明田川融（あけたがわ とおる）氏の講話があり、他国では協定の改定や新たな協定の締結を実現し、見直しがされていた。日本はいまだ見直しが進まず、条件も評価できるものではない。日本の地位協定の抜本的な見直しを求めていく必要性を改めて認識しました。

沖縄戦から77年がたち、ことしは沖縄が本土復帰し50年となる節目の年、現在でも在日アメリカ軍専用施設のおよそ7割が集中する。



連合 2022 平和オキナワ集會の様子

ピースフィールドで訪れた嘉手納や普天間基地見学では、軍機の爆音に驚き、軍機の下には民家があり、保育園や学校があり、安心・安全な生活が脅かされている現状や米軍基地の負担の重さを実感した。ひめゆりの塔資料館では、放映された語り部の話を聞き悲しみが込み上げ、今ここに生きている事に改めて感謝した。沖縄戦で亡くなられた人々に心から哀悼の意を捧げ、世界平和を願い「米軍基地問題は日本全体の問題として解決していかなければならない」

思いを自分ごととして、恒久平和の実現に向け平和運動を推進していくこと誓い合った。

平和集會参加者の皆さんはじめ、この悲惨な出来事を語り伝えていくことで、平和運動がさらに広がっていくことを願い帰路につきました。



(記：連合福島 副事務局長 大越香代子)